

第61回宇宙科学技術連合講演会

東海大学 情報通信学部

植田優基



2017年10月25（水）から10月27（金）の期間、新潟県新潟市にある朱鷺メッセにて、宇宙科学技術をテーマとして第61回宇宙科学技術連合講演会が開催された。本学会では274件の一般セッションや366件のオーガナイズドセッション、75件の学生ポスターセッション、3件の特別公演、22団体による展示が行われた。

セッションの内容としては、火星探査ミッションの紹介や、探査機の概要、宇宙エレベーターの検討などといった検討、小型人工衛星用の推進系の研究、宇宙空間の高速通信において期待されている空間光通信において課題となる大気の影響や、雲の回避方法に関する検討など、様々な研究発表が行われていた。

特別セッションでは宇宙法の動向や、ERGプロジェクトが目指したものとあらせ衛星の初期成果、新潟清酒の歴史と日本酒の今後などの発表が行われた。



▲ 第61回宇宙科学技術連合講演会看板



▲ 会場の朱鷺メッセ

筆者自身は光の伝搬特性と光の宇宙利用技術に関する研究開発（OS18）というオーガナイズドセッションで火星-地上局間光通信における接続可能時間の検討と題して研究発表を行った。初めての学会参加ということもあり、少々緊張したものの無事に発表を終えることができ、他の発表を聞き、学ぶことが多数あり非常に有意義な時間だった。

会場となった新潟市には様々な歴史的建造物や自然がある。歴史資料館として、みなとぴあや新潟県政記念館などがあり、地域の歴史を知ることができる。また信濃川周辺や白山公園など豊かな自然が多数あり、ゆっくりと観光ができる。新潟駅から観光循環バスが出ており、各観光地へ行きやすいのも特徴だ。新潟市から少し足を伸ばすと、非常に豊かな田園風景が広がり、車窓から眺める阿賀野川や五頭連峰は非常に美しい風景である。 ■



▲ みなとぴあ



▲ 信濃川